

編集後記

2018年秋、年賀状を整理しながら、「同期の記録」を残そうと思いついた。しかし、卒業以来60余年、80歳を超えた同志には「集まって議論・作業する」ことは容易なことではない。時間を持て余している高齢者だと思われるかも知れないが「病院の予約」「孫の慶事」「老人会参加」「知人の不幸」などの雑用(?)は尽きない。

「同期」を入学時の同期入学にするか、卒業時のそれにするかについての議論もあったが、「同期入学」に落ち着いた。

ともあれ、同期の諸兄8名のご寄稿を頂き、誌名は「一期一会」に決め、編集・印刷は遅々として進み、2019年度発行が2020年度にずれ込むことは何とか避けて、今日を迎えた。

誌名の「一期一会」は、千利休が弟子に茶会の心得として教えた言葉であるが、私たちが一生に一度の大学入学で出会った同期の仲間との関係を大切にしようという意味で採用した。

用紙の選定にも苦労したが、そこは「物の無い時代」、あるいは「物の無い開発途上国」で生き抜いた経験がものを言った。この誌はすべてが発起人の手作りである。

80歳を超えた仲間が同期誌を手作りに発行するのは稀有なことか、ギネスブックへの登録の可否を含め、調べてみたい。

2019年3月

同期誌発行発起人(五十音順)

杉本 良樹

柳田 圭一 (編集・印刷担当)

吉謙 恒夫

一期一会

(横浜国立大学工学部造船工学科1954年入学同期の記録)

編集発行： 上記同期の有志

発行： 2019年3月

非売品

本誌内容の、複製・無断引用を固くお断りいたします。